若い世代に広報誌の訴求力を高めるには

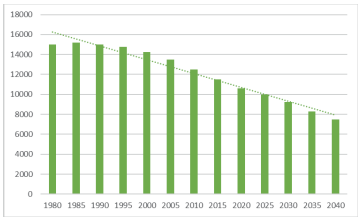
～塩谷町の広報誌を使用し、人口減少の問題にアプローチする～

21班
コミュニティデザイン学科　大川笙　田口美空
建築都市デザイン学科　小保方美斗　高谷優成　山崎恭
社会基盤デザイン学科　斎藤昌宏　森田光生
地域パートナー　塩谷町企画調整課　風見達也様　増渕有紗様
グループ指導教員　佐藤栄治

01　地域の背景

今回の地域プロジェクト演習は「若い世代に広報誌の訴求力を高めるには」ということで、背景として塩谷町の**人口減少が進んでおり、それを止めるため**に、広報誌を利用して少しでも若い世代に塩谷町を好きになってもらうことを目的とした活動となっている。現在塩谷町には小学校3校、中学校1校、高校0校となっている。高校がないため、中学校を卒業すると必ず塩谷町を出ることになってしまう仕組みになっている。したがって、今回はもうすぐ塩谷町から離れてしまう中学生に焦点を当て、中学生に**「広報しおや」に興味を持ってもらえる**ような広報誌づくりをすることに決めた。具体的には、中学生の嗜好と塩谷町出身の20代の意見をもとにPR方法を決定するものとした。

02　目的



塩谷町では若者の流出により、過疎化が深刻化しているという現状がある。したがって、若い世代に塩谷町の良さを知ってもらうことで、人口減少を抑制できるのではないかと考えた。**広報誌を利用して少しでも若い世代に塩谷町を好きになってもらうこと**を目的としている。

03　調査方法

中学生を対象としたアンケートと**20代**を対象としたアンケートの二通りを作成した。グーグルフォームを利用して中学生には中学校を通して20代には塩谷町出身者が直接送った。記述式の回答をメインとし個々の意見を知れるような形式にした。

04　分析結果

①　中学生にアンケート調査を実施したところ、**将来塩谷町に住みたいという人が11.2%**だった。また、中学生から20代への質問で、「塩谷町の魅力についてどう考えているか」を聞く声が多かった。

他に多かった意見として、広報誌で自分の興味のあることや身近な友達、学校のことなど自分の生活に関係のある記事を読みたいという人が多かった。

②　塩谷町出身の20代にアンケート調査を実施したところ、塩谷町に戻りたいという人は少なかったものの中学生からは十分な回答が得られなかった塩谷の魅力についての質問は回答率が100%で塩谷町の外に出たからこそ魅力に感じる点があると考えられる。

これらの結果を統合し、**塩谷町の２０代と中学生が広報誌内で交流できるページを作成**した。そうすることで中学生が広報誌を見る機会が増えるとともに、新たなコミュニケーションツールとして塩谷町の魅力が伝わるのではないかと考えた。

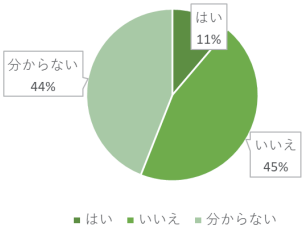


図１「将来塩谷町に住みたいですか」に対する中学生の回答(125件の回答)

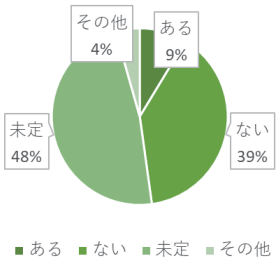


図２「将来塩谷町に住みたいですか」に対する塩谷町出身の２０代の回答(23件の回答)

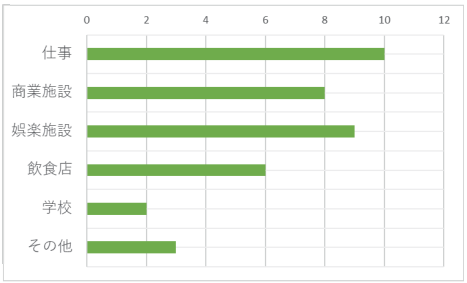


図３「何があれば戻ってきたいですか」に対する塩谷町出身の２０代の回答(20件の回答)

<u>記述式調査を行い判明した中学生が広報誌で読みたいテーマ</u>

・自分が住んでいるところの危険なところ
・クラスメイトが載っているページ
・中学校や学校の様子
・塩谷町の温泉や飲食店などの施設
・自らの推し活について

➡ **自分に関する「自分ごと」**

05　広報しおや

広報しおや 令和6年2月号に実際に掲載されたページ

特別記事

宇都宮大学
塩谷町新聞　vol.01

地域デザイン科学部　大川笙　田口美空　小保方美斗　高谷優成　斎藤昌宏　山崎恭　森田光生

アンケートにご協力していただいた皆さん、ありがとうございました！

私たちは宇都宮大学地域デザイン科学部の四年生です。今年度、地域の課題と向き合い解決策を提案する「地域プロジェクト演習」という授業で、塩谷町の広報誌を活性化する方法を考えてきました。そこで、塩谷町出身の20代と中学生にアンケート調査をしました。今回は中学生からの質問に答えていきます！

将来の夢は中学生の頃にありましたか？もしあったとしたらどのように決まりましたか？

僕は小さい頃からずっと工作とか絵を描くことが好きで中学生の時は特に文房具が好きだったので文房具を作る デザイナーになりたいと思っていたんですが高校に入り、文房具に取らず、何か物を作る仕事がしたいんだと気づきました。そこで建物や人が住むまちへの興味があることに気づき建築士を目指すことにしました。
もしあなたが将来の夢ややりたいことが無いのなら、今回が好きなのか、嫌しか好きならお題マネージャーとか、ラーメンが好きならラーメン屋とか今はそんな感じでいいと思います。だんだん大人になっていく過程、知識をつけていくやってそれが別様の物になっていくのでそんなに焦らずにも、目の前の好きなものを全力で追ってください。

成人してから大変なことはなんですか？

・クレジットカードの使いすぎには意！お金を使える幅が広がるので注意しよう
・家事自炊
一人暮らしができるようになるので、家事自炊を一人でやらないといけなくなる。いつもお母さんにしてもらっていて、やり方が分からないよりからお手伝いして身につけよう。

好きなひらがなはなんですか？

「ぬ」です。

中学、高校の部活はなんでしたか？

中学		高校
陸上部	→	陸上部
陸上部	→	陸上部
卓球部	→	卓球部
バスケ部	→	バスケ部
バスケ部	→	バドミントン部

私たちが中学、高校生の時の部活です！みんな中学生の時と同じ部活をやりがち。でも高校のほうが部活が多いから、今までやったことない部活に入ることもいいね！

卒業してから中学校でやってよかったことはなんですか？

勉強！
中学生の時は勉強しながら「こんなの将来絶対使わないだろ」と思ってたけど、中学校で勉強することは大人になってから知らないと恥ずかしいことだったんだなと、最近気づきました。

適度に勉強に七力を入れたことと将来の自分のためになるよ。

過ぎときどこで遊んでましたか

普段は友達の家で、宇都宮はベルモールやラウンドワンで遊んでたよ。

中学校での思い出は

個人的には、部活と合唱コンクールが印象に残ってるよ。持久走とか大変かもしれないけど今ではいい思い出になりました。

塩谷町に出身で良かったと思うことはなんですか？

中学校がきれいなことかな。

「おすすめの勉強方法」

・覚える系の教科はひたすら「音読」をすることだよ！教科書を丸暗記するつもりで毎日音読すればどんな問題でもできるはず。
・勉強の場所を変える！気分転換になるよ。
・チョコを食べる！集中力がいつもより続くよ！
・数学も暗記のつもりでたくさんの問題に触れて覚えよう。

塩谷町出身の大人から中学生へのメッセージ

社会人や大学生になって気づいたけど やっぱ塩谷町はとても暮らしやすい！ 学校行事等第一杯頑張ってください！

これから将来を担っていく若者として、何事にも自分の考えや意見を持てるような大人になって欲しいです。

自分のように、ひょっとしたら高校のつながりよりも良くなる友人も居るかもしれませんね

田舎で嫌と思う事もあると思いますが、都会に出ると塩谷町が恋しくなるぐらい水と空気が美味しいです。学生楽しんで！！

06　提案

【広報誌の内容】
・塩谷町の小・中学生が興味を持てるようなトピックを増やす。ある程度特定的な内容であっても繰り返すことで、趣味、興味を町に対して共有していく。→**「自分ごと」**
・自分で書いた文章（本検証では質問）が直接誌面に掲載され、その文章に対するレスポンスがあることで、自らが町という大きい母体に対して影響を与えてるという**実感**を持たせる。
・塩谷町を既に出た人に塩谷町の広報誌への関心を持たせることで、**郷土愛の増加、Uターン**を図る。今回はアンケート調査という形でメッセージを募った。**町外で活躍する地域住民の特集**など自分ごととして町を捉えられるものにする。
・現代と馴染みの少ない紙媒体を広報物としての利用を行うだけでなく、住民のコミュニティの創出、コミュニケーションのツールのような**人と人の間に入る媒体**としての存在意義を追求する。

【広報誌の普及】
・SNSや電子書籍など**オンライン**で気楽に無意識に見れるようなシステムを利用する。
・広報誌を本検証でいう中学校のような記事に関係する施設に置く。「自分ごと」の生活範囲の施設に置く。